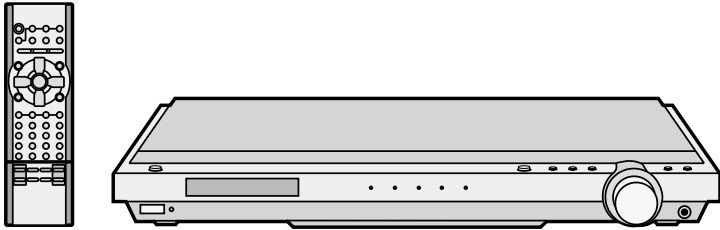
Panasonic

AV コントロールアンプ
取扱説明書

品番 **SA-XR10**

このたびは、AV コントロールアンプをお買い上げいただき、まことにありがとうございました。

- この取扱説明書と保証書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。
  そのあと保存し、必要なときにお読みください。
- 保証書は、「お買上げ日・販売店名」などの記入を必ず確かめ、販売店からお受け取りください。

保証書別添付

この取扱説明書の印刷には、植物性大豆油インキを使用しています。

この取扱説明書はエコマーク認定の再生紙を使用しています。

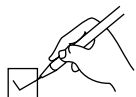
もくじ

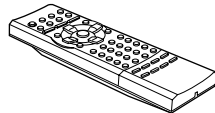
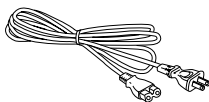
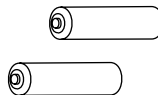
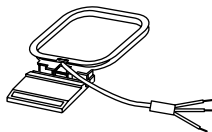
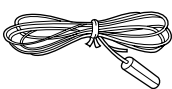
RQT6214-S

本機の特長

本機はデジタルアンプです

- 本機ではデジタル信号を、入力から最終アンプ増幅回路に至るまで完全にデジタル化して処理します。そのため、周波数に依存しない広帯域の再生を実現しています。また、VGDA（バリアブル・ゲイン・デジタル・アンプ）技術により実際に使用される音量域での信号対雑音比（S/N比）を改善し、ノイズの少ない、クリアで原音に近い再生を可能にしています。
- デジタルアンプは無駄な熱損失が少ない（エネルギー効率 90 % 以上）地球環境に配慮したアンプです。

付属品の確認

接続の前に、まず付属品を確認してください。

□ 電源コード ……………………1 本 （RJA0050-K）	□ リモコン ………………………1 コ （N2QAJB000044）
□ AM ループアンテナ ………1 本 （RSA0033C）	□ リモコン用単 3 形乾電池 …2 コ
□ FM 簡易型アンテナ ………1 本 （RSA0007）	□ クリーニングクロス…………1枚 （RFE0088-1）

お願い

付属品の買い替えは、お買い上げの販売店にご相談ください。
かっこ（　）内は買い替え時の品番です。

安全上のご注意 必ずお守りください

お使いになる人や他の人への危害、財産への損害を未然に防止するため、必ずお守りいただくことを、次のように説明しています。

■ **表示内容を無視して誤った使い方をしたときに生じる危害や損害の程度を、次の表示で区分し、説明しています。**

⚠ 警告	この表示の欄は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
⚠ 注意	この表示の欄は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

■ **お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。（下記は絵表示の一例です。）**

	このような絵表示は、してはいけない「禁止」内容です。
	このような絵表示は、必ず実行していただく「強制」内容です。

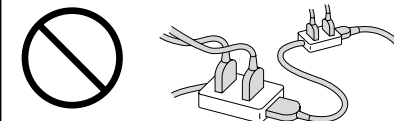
⚠ 警告

電源コードについて

電源コード・プラグを破損するようなことはしない

［傷つけたり、加工したり、熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、重い物を載せたり、束ねたりしない。］

- 傷んだまま使用すると、感電・ショート・火災の原因になります。
- コードやプラグの修理は、販売店にご相談ください。

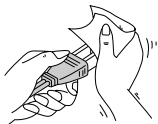
コンセントや配線器具の定格を超える使い方や、交流 100 V 以外での使用はしない

- たこ足配線等で、定格を超えると、発熱による火災の原因になります。

電源プラグは根元まで確実に差し込む

- 差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因になります。
- 傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

⚠ 警告

電源コードについて

電源プラグのほこり等は定期的にとる

- プラグにほこり等がたまると、湿気等で絶縁不良となり火災の原因になります。
  電源プラグを抜き、乾いた布でふいてください。
- 長期間使用しないときは、電源プラグを抜いてください。

ぬれた手で、電源プラグの抜き差しはしない

ぬれ手禁止

- 感電の原因になります。

ご使用について

機器内部に金属物を入れたり、水をかけたり濡らしたりしない

- ショートや発熱により火災や感電の原因になります。
- 機器の上に液体の入った容器や金属物を置かないでください。
- 特にお子様にはご注意ください。

分解、改造しない

分解禁止

- 内部には電圧の高い部分があり、感電の原因になります。
- 内部の点検や修理は、販売店へご依頼ください。

もし異常が起こったら

異常があったときは電源プラグを抜く

電源プラグを抜く

- **機器内部に金属や水、異物が入ったとき**
- **煙や異臭、異音が出たり、落下、破損したとき**
- そのまま使用すると、火災や感電の原因になります。
- 販売店にご相談ください。

雷について

雷が鳴ったら、アンテナ線や機器、電源プラグに触れない

接触禁止

- 感電の恐れがあります。

⚠ 注意

設置・接続について

放熱を妨げない

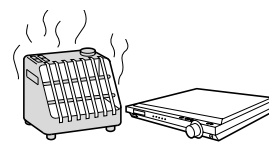
- 内部に熱がこもると、機器のケースが変形したり、火災の原因になります。

不安定な場所に設置しない

- **上に大きなもの、重いものを載せない**
- 機器が落ちたり、倒れたりして、けがの原因になることがあります。

⚠ 注意

設置・接続について

異常に温度が高くなるところに置かない

- 機器表面や部品が劣化するほか、火災の原因になることがあります。
- 直射日光の当たるところ、ストーブの近くでは特にご注意ください。

油煙や湯気の当たるところや湿気やほこりの多いところに置かない

- 電気が油や水分、ほこりを伝わり、火災や感電の原因になることがあります。

屋外アンテナの設置・工事は自分でしない

- 強風でアンテナが倒れた場合に、感電やけがの原因になることがあります。
- 設置・工事は販売店にご相談ください。

ご使用について

コードを接続した状態で移動しない

- 接続した状態で移動させようとすると、コードが傷つき火災や感電の原因になることがあります。
- また、引っかかったりして、けがの原因になることがあります。

ご使用について

ヘッドホン使用時は、音量を上げすぎない

- 耳を刺激するような大きな音量で長時間続けて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。

電池について

電池は正しく取り扱う

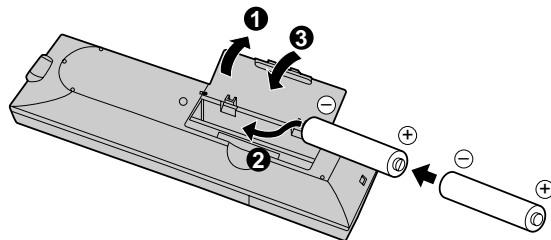
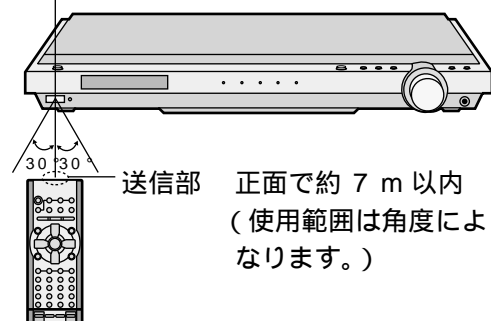
- **⊕と⊖は正しく入れる**
- **長期間使用しないときは、取り出しておく**

電池は誤った使い方をしない

- **新・旧電池や違う種類の電池をいっしょに使用しない**
- **乾電池は充電しない**
- **加熱・分解したり、水、火の中へ入れたりしない**
- **ネックレスなどの金属物といっしょにしない**
- **乾電池の代用として充電式電池を使わない**
- **被覆のはがれた電池は使用しない**

- 取り扱いを誤ると、電池の液もれにより、火災や周囲汚損の原因になります。
- 万一液もれが起こったら、販売店にご相談ください。
- 液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

準備 1 2 3 4 リモコン

乾電池の入れかた

リモコンの使いかた

■使用上のお願い

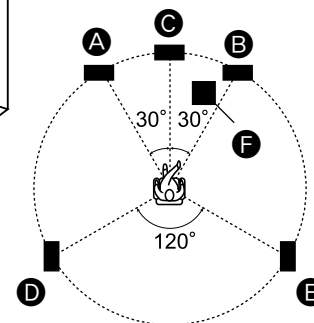
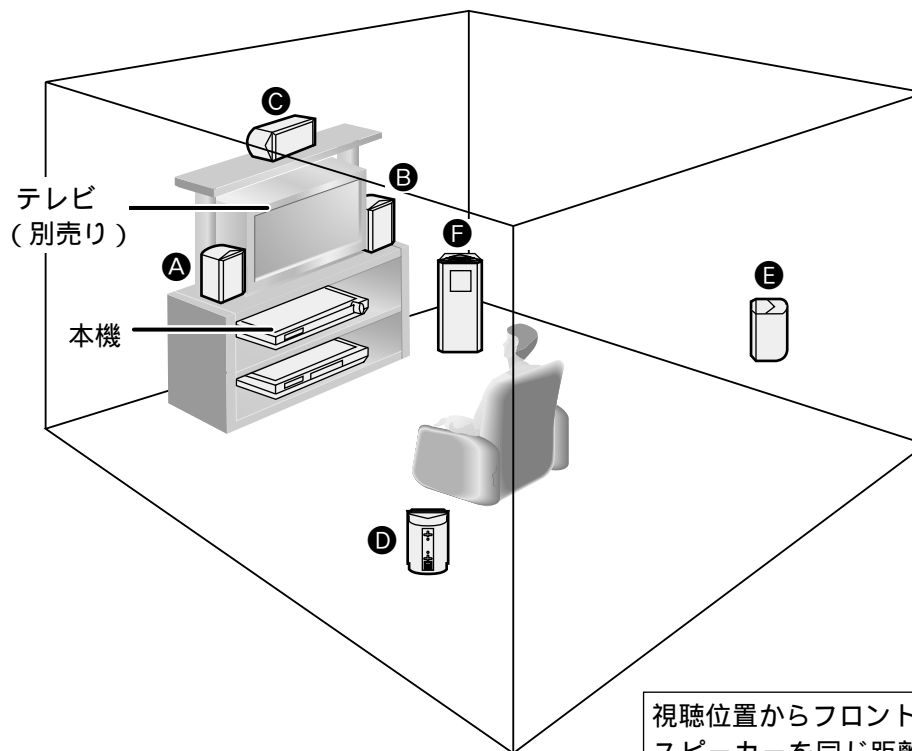
- 受光部とリモコンの間に障害物を置かない。
- 受光部に直射日光やインバーター蛍光灯の強い光を当てない。
- 受光部とリモコンの先端のほこりに注意。

■本体をラックに入れて使用するとき

ラックのガラス扉の厚さや色などによって、リモコンの動作範囲が短くなることがあります。

準備 2 3 4 スピーカーの接続

スピーカーの説明書もご覧ください。

設置

視聴位置からフロント/センター/サラウンドの各スピーカーを同じ距離に設置するのが理想です。なお、角度はあくまでも目安です。

フロントスピーカー（Ⓐ 左 Ⓑ 右：別売り）

テレビの左右に置き、視聴位置で（実際に椅子に座るなどして）映像と音声の動きが合うように、位置や角度を調整してください。

センタースピーカー（Ⓒ：別売り）

テレビの真上か真下に置き、視聴位置での耳の高さへまっすぐに向けてください。

サラウンドスピーカー(Ⓓ 左 Ⓔ 右：別売り）

視聴位置の左右（横またはやや後ろ）に、耳の位置より 1 m ほど高く設置してください。

サブウーハー（Ⓕ：別売り）

テレビから大きく離れない程度の適当な位置に置いてください。

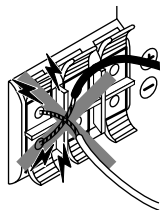
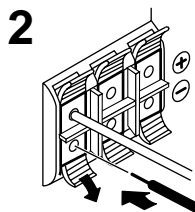
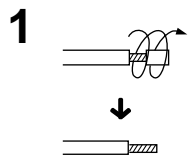
置く場所によって低域の周波数特性が変化しますので色々試してみてください。例えば、部屋の隅に置くと少し不自然な感じにはなりますが音量が増加します。

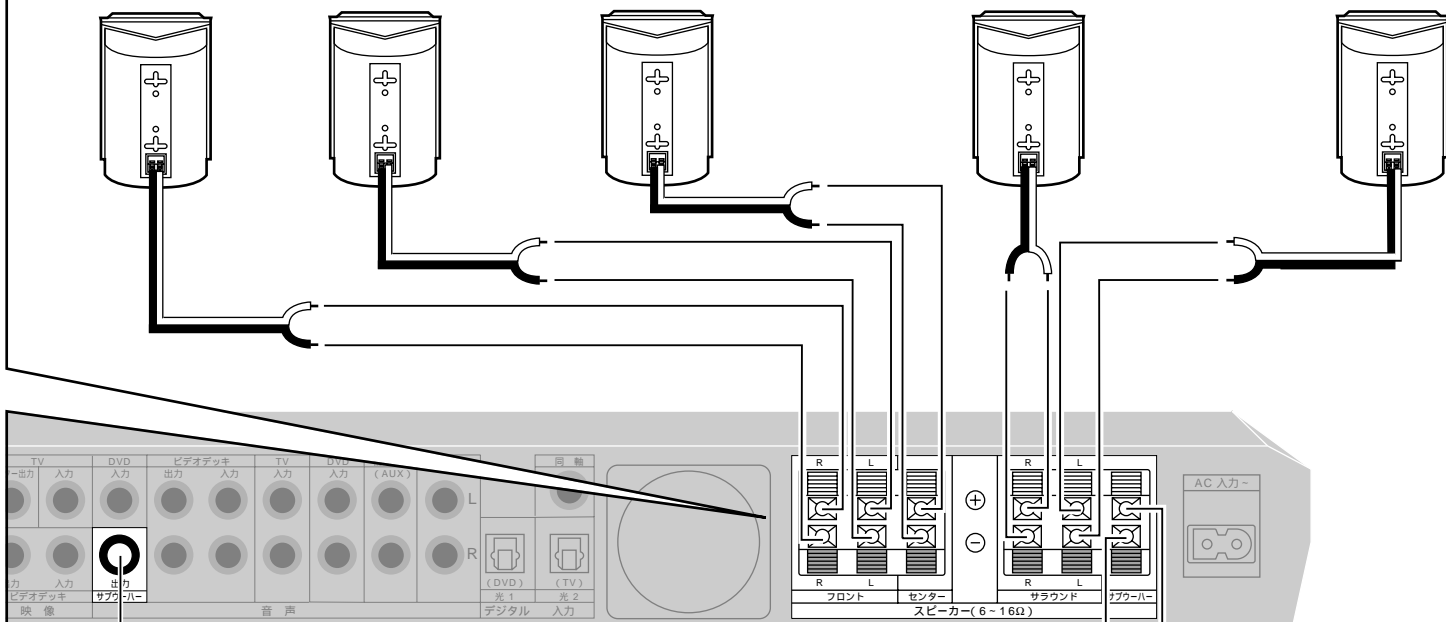
接続

スピーカーコードの接続方法

スピーカーコード（別売り）

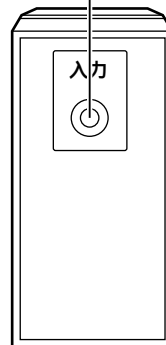
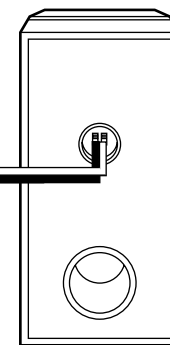
1

2

- L（左）、R（右）と＋、－をご確認の上、正しく接続してください。誤った接続をすると故障の原因になります。
- スピーカーコードをショートさせないでください。回路が破損する恐れがあります。

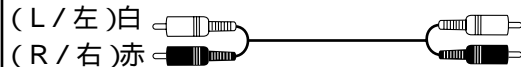
スピーカーインピーダンス：6 ～16 Ω

サブウーハーの接続

本機は、パッシブサブウーハー（アンプを内蔵していないサブウーハー）とアクティブサブウーハー（アンプを内蔵しているサブウーハー）両方に対応しています。<u>どちらか一方を接続して、ご使用ください。</u>

各機器の接続

接続する機器の説明書もご覧ください。

お知らせ

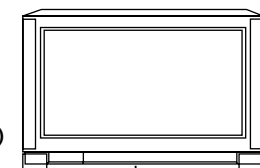
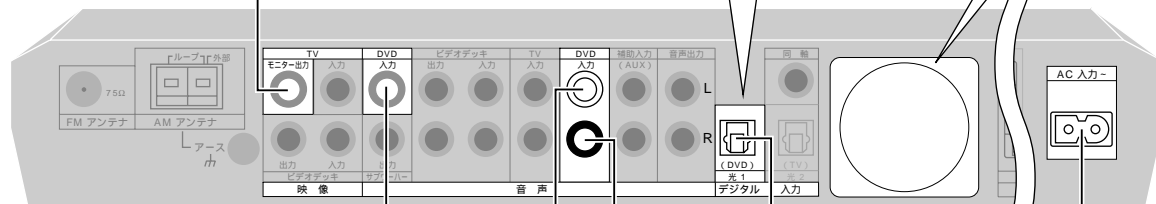
- 接続するときには、各機器の電源を切ってください。
- 本機の上には物を載せないでください。
- 光や同軸のデジタル端子のみで接続している機器からの録音はできません。アナログ端子にも接続して、アナログ入力を選んでください。(➡ 12 、19 ページ)
- プログレッシブ対応の DVD プレーヤーをプログレッシブ対応のテレビに接続する場合、DVD プレーヤー の映像出力は直接テレビに接続してください。

■ 本機と各機器を接続するには下記のコード・ケーブル類が必要です。

別売り品の品番は、2001 年 11 月現在のものです。
品番は変更されることがあります。

DVD プレーヤーとテレビの接続

● テレビ
(別売り)

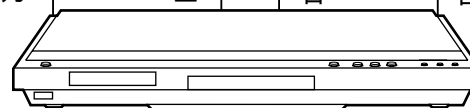
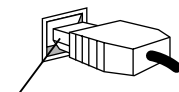
映像入力

● 本機

● DVD プレーヤー(別売り)

映像出力

音声出力
左

音声出力
右

デジタル
音声出力

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

- ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

冷却ファン

回転して本機内部の熱を放出します。

ご家庭の電源コンセント
(AC 100 V、50/60 Hz)

お知らせ

CD プレーヤー(別売り)を接続する場合は、DVD 入力を使用してください。

電源コードの接続

- 他の接続がすべて終わってから、最後にコンセントへ接続してください。
- 電源プラグをコンセントから抜いた状態で約 2 週間そのままにしておくと、本機の各種設定は工場出荷時の状態に戻ります。そのときは再度設定を行ってください。

お願い

付属の電源コードは、本機専用です。他の機器に使用しないでください。

ビデオデッキの接続

ビデオデッキ（別売り）を接続できます。
録音・録画については 19 ページをご覧ください。

カセットデッキなどの接続

カセットデッキ（別売り）や MD デッキ（別売り）を接続できます。録音については 19 ページをご覧ください。

お知らせ

"補助入力（AUX）"端子にイコライザー内蔵のアナログプレーヤー（当社製 SL-J8：別売り）を接続する場合、プレーヤーの PHONO OUT/LINE OUT を"LINE OUT"に切り換えてください。

同軸出力付き機器の接続

同軸出力付きの DVD プレーヤー（別売り）などを接続できます。その場合、デジタル入力端子の設定を切り換えてください。（➡ 18 ページ）

お知らせ

デジタル入力端子の設定を同軸に切り換えた DVD または TV の光入力端子は、設定を元に戻すまで使用できません。

アンテナの接続

FM 簡易型アンテナ（付属）

テープで壁や柱などに止める

AM ループアンテナ（付属）

白のコードを左、赤のコードを右の AM アンテナ端子に接続し、黒のコードをアースに巻き付けてください。

お知らせ

- つないだ後、実際に放送を受信してみて雑音の少ない位置に設置してください。
- よりよい音で受信するためには、屋外アンテナの利用をおすすめします（➡ 22 ページ）。

テレビの接続

テレビ（別売り）を接続できます。

BS デジタルチューナーなどの接続

BS デジタルチューナー（別売り）や CS チューナー（別売り）などを接続できます。

BS デジタルチューナーなどの光出力端子

光デジタルケーブルの接続方法

形状を合わせて差し込む

- ケーブルを急な角度に折り曲げないでください。

準備4 スピーカーの設定 スピーカーの説明書の定格ページもご覧ください。

押して、電源を入れる

接続したスピーカーの特性や設置位置に合わせて右記の"SIZE"、"DISTANCE"、"FILTER"、"出力レベルの調整"を行ってください。

お知らせ

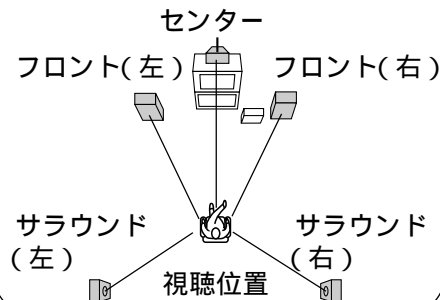
- 本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。

SB-XRP10、SB-PF500/SB-AFC500 情報

当社製 SB-XRP10、SB-PF500/SB-AFC500（スピーカーシステム：それぞれ別売り）を接続した場合、下記の設定をおすすめします。

■SB-XRP10 の場合
SIZE：各スピーカー：SMALL
FILTER：150

■SB-PF500/SB-AFC500 の場合
SIZE：フロント：LARGE
センター/サラウンド：SMALL
FILTER：100

視聴位置と各スピーカーとの距離

有無とサイズの設定 SIZE

スピーカーにより、再生できる周波数帯域は異なります。特に低音域を不足することなく再生させるためにサイズの設定を行います。

- FRONT（フロント）/CENTER（センター）/SURROUND（サラウンド）
  LARGE：100 Hz 以下の低音域が十分に再生できるスピーカー
  SMALL：上記以外のスピーカー
  NONE：センター/サラウンドスピーカーを接続していないとき
  工場出荷時：FRONT：LARGE
  CENTER/SURROUND：SMALL
- SUB-WFR（サブウーハー）（パッシブおよびアクティブ）
  YES：接続しているとき（工場出荷時）
  NO：両方とも接続していないとき

1 MEMORY TUNE MODE **同時に押す**
SETTING

2 MEMORY **押して、"SIZE"を選ぶ**
SIZE
押すたびに
SIZE → DISTANCE → FILTER → DR COMP
↑ PL II MODE ← A/D ATT ← LIGHT ← D-INPUT ↵

3 TUNE MODE **押して、スピーカーを選ぶ**
FRONT
押すたびに
FRONT → CENTER → SURROUND
↑—— SUB-WFR ←——┘

4 ∨ TUNING ∧ **押して、スピーカーの有無とサイズを選ぶ**
LARGE

手順 3 と 4 を繰り返し、全てのスピーカーの有無とサイズを設定する

5 MEMORY TUNE MODE **同時に押して、設定を終了する**
COMPLETE

距離の設定　DISTANCE

スピーカーの設置位置により、視聴位置に音が届くタイミングは異なります。本機では、フロント/センター/サラウンドスピーカーから視聴位置までの距離を設定することで、遅延時間（ディレイタイム）を自動的に算出し、このタイミングを補正します。各スピーカー 1.0 m から 10.0 m の間を 0.1 m 間隔で設定できます。

工場出荷時：FRONT/CENTER：3.0 m
SURROUND：1.5 m

- あらかじめ各スピーカーと視聴位置との距離を測っておいてください。（➡ 8 ページ " 視聴位置と各スピーカーとの距離 " 参照）

1 MEMORY TUNE MODE　**同時に押す**　SETTING

2 MEMORY　**押して、" DISTANCE "を選ぶ**
押すたびに　DISTANCE
SIZE → DISTANCE → FILTER → DR COMP
↑ PLⅡ MODE ← A/D ATT ← LIGHT ← D-INPUT ↵

3 TUNE MODE　**押して、スピーカーを選ぶ**
押すたびに　FRONT
FRONT → CENTER → SURROUND

4 TUNING　**押して、距離を設定する**
3.0 m
1.0 m～10.0 m

手順 3 と 4 を繰り返し、フロント/センター/サラウンドスピーカーと視聴位置との距離を設定する

5 MEMORY TUNE MODE　**同時に押して、設定を終了する**　COMPLETE

低域フィルターの設定　FILTER

スピーカーの SIZE（➡ 8 ページ）を" SMALL "に設定した場合のみこの設定を行ってください。（FILTER の設定内容は " SMALL "にした全てのスピーカーに設定されます。スピーカーごとには設定しません。）

スピーカーが" SMALL "の場合は低音域を十分に再生することができません。そこで、接続するスピーカーの再生周波数帯域に応じて低域フィルターを設定し、不足している低域成分をサブウーハーに出力させます。

100：100 Hz 以下の低域成分をサブウーハーに出力させるとき（工場出荷時）
150：150 Hz 以下の低域成分をサブウーハーに出力させるとき
200：200 Hz 以下の低域成分をサブウーハーに出力させるとき

1 MEMORY TUNE MODE　**同時に押す**　SETTING

2 MEMORY　**押して、" FILTER "を選ぶ**
押すたびに　FILTER
SIZE → DISTANCE → FILTER → DR COMP
↑ PLⅡ MODE ← A/D ATT ← LIGHT ← D-INPUT ↵

3 TUNING　**押して、低域フィルターの周波数を選ぶ**
100
100 ↔ 150 ↔ 200

4 MEMORY TUNE MODE　**同時に押して、設定を終了する**　COMPLETE

出力レベルの調整

視聴位置で、フロントスピーカーと各スピーカーからの音が同じ音量で聞こえるように調整します。

お知らせ
- SIZE（➡ 8 ページ）を" NONE "や" NO "に設定したスピーカーはスキップされます。
- 手順 3 と 4 でテスト信号は調整しているスピーカーからのみ出力されます。操作後約 4 秒経つと、再び各スピーカーから順に出力されます。

1 テスト　**押して、テスト信号を出力させる**
TEST L
L → C → R → RS → LS → SW

約 2 秒間隔で各スピーカーから下記の順に出力されます。
1. **L**：フロント（左）　4. **RS**：サラウンド（右）
2. **C**：センター　5. **LS**：サラウンド（左）
3. **R**：フロント（右）　6. **SW**：サブウーハー

2 音量 + −　**押して、フロントスピーカーの音量を通常聞く音量に調整する**

3 レベル　**押して、調整するスピーカー（センター/サラウンド/サブウーハー）を選ぶ**　C 0dB
押すたびに　C → RS → LS → SW

4 ▲+ −▼　**押して、フロントスピーカーと同じ音量に聞こえるように調整する**　C +4dB
C/RS/LS: −10 dB～+10 dB（工場出荷時: 0 dB）
SW: --- (切) ↔ MIN（最小）↔ 1～19 ↔ MAX（最大）

手順 3 と 4 を繰り返し、各スピーカーとフロントスピーカーが同じ音量に聞こえるように調整する。

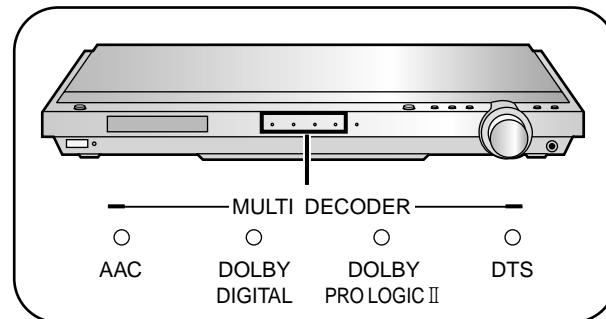
5 テスト　**押して、テスト信号を止める**

サラウンドシステムとサウンドモード

サラウンドシステム

本機では、DVD などのソースを下記のサラウンドシステムでお楽しみいただけます。

サラウンドシステム	供給ソフト	特長
エーエーシー AAC アドバンスド (Advanced オーディオ コーディング Audio Coding)	BS デジタル放送など	BS デジタル放送などに採用されている圧縮音声です。最大 5.1 チャンネルのサラウンド音声を再生できます。
ドルビー デジタル Dolby Digital	DOLBY DIGITAL 上記マークのついた ● DVD　など	ドルビー研究所が開発したデスクリート 6 (5.1) チャンネル方式を用いたデジタルサラウンドシステムのひとつです。
ドルビー Dolby プロ ロジック Pro Logic Ⅱ	● ビデオテープ ● レーザーディスク ● DVD ● CD などのあらゆるソース	ドルビーサラウンドだけでなく 2 チャンネルのあらゆるソースをよりリアルな音場で再生するために開発されたデコードシステムです。サラウンドチャンネルをステレオ音声、フルレンジ (音声帯域が 20 Hz〜20 kHz) で再生します。
ディーティーエス DTS デジタル (Digital シアター Theater システムズ Systems)	 上記マークのついた ● DVD ● レーザーディスク ● CD　など	DTS 社が開発した音声圧縮方式で、デスクリート 6（5.1) チャンネル方式を用いたデジタルサラウンドシステムのひとつです。
エスエフシー SFC サウンド フィールド (Sound Field コントロール Control)	音楽 CD、ビデオテープなどで楽しむことができます。	ソースの信号をアンプ側でデジタル処理することで、サラウンド効果をつくり出します。再生音に広がり感や残響を与えることで色々な音場を楽しむことができます。

MULTI DECODER（マルチ デコーダー） ランプ

入力ソースにより次の MULTI DECODER ランプが点灯します。

AAC：AAC ソース (BS デジタル放送など) を再生したとき

DOLBY DIGITAL：ドルビーデジタルソースを再生したとき

DOLBY PRO LOGIC Ⅱ：
2 チャンネルソースやドルビーサラウンドソースを SURROUND モードで再生したとき

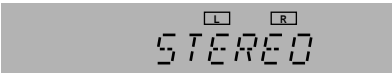
DTS：DTS ソースを再生したとき

プログラムフォーマット表示

SURROUND　LFE LS L C R RS S
SURROUND

デジタル入力信号に含まれるチャンネルが表示されます。入力がアナログのときは表示されません。

L：フロントチャンネル (左)
C：センターチャンネル
R：フロントチャンネル (右)
LS：サラウンドチャンネル (左)
RS：サラウンドチャンネル (右)
S：サラウンドチャンネルがモノラルの場合に表示
LFE：重低音効果チャンネル

サウンドモード

本機のサウンドモードには、STEREO、SURROUND、SFC モードがあります。
PCM（通常の音楽 CD など）、ドルビーデジタル、DTS や AAC のデジタル信号で記録されたソフトを再生したり、アナログや PCM のステレオ音声にサラウンド効果を付けるなど幅広くお楽しみいただけます。

お知らせ

- 本機では PCM（32 kHz、44.1 kHz、48 kHz、や 96 kHz など）、ドルビーデジタル、DTS や AAC 以外のデジタル信号を処理することはできません。例えば、192 kHz のサンプリング周波数をもつ PCM や MPEG などの信号は再生できません。
- 88.2 kHz や 96 kHz の PCM ソースをデジタル入力で再生した場合、SURROUND モードは選べません。
- 88.2 kHz や 96 kHz の PCM、ドルビーデジタル、DTS や AAC のソースをデジタル入力で再生した場合、 SFC モードは選べません。

STEREO モード

L R
STEREO

アナログや PCM のステレオ音声（2 チャンネル）が楽しめます。また、ドルビーデジタル、DTS や AAC のソースを 2 チャンネルで再生する場合も使用できます。その場合には各スピーカーに分割された信号をフロントスピーカーに集約して出力（ダウンミックス出力）します。

SURROUND モード

SURROUND LFE LS L C R RS
SURROUND

デジタル入力で再生しているときにこのモードを選ぶと、ドルビーデジタル、DTS や AAC のフォーマットを本機が自動的に判別し、信号処理を行います。また、2 チャンネルデジタルソースやアナログソース（ビデオテープなど）の場合は、自動的にドルビープロロジックⅡで再生します。

■ドルビープロロジックと同等の効果で楽しむ

ドルビープロロジックⅡの音質は従来のドルビープロロジックとは異なります。従来のドルビープロロジックと同等の効果で楽しみたい場合は“ PL ”に設定してください。（➡ 下記）

本体

1. **[MEMORY]と[TUNE MODE]を同時に押す**
   表示窓に“ SETTING ”と表示されます。
2. **[MEMORY]を押して、“ PLⅡ MODE ”を選ぶ**
3. **[∨ TUNING ∧]を押して、“ PL ”を選ぶ**
   元に戻す場合は“ MOVIE ”を選んでください。
4. **[MEMORY]と[TUNE MODE]を同時に押して、設定を終了する**
   表示窓に“ COMPLETE ”と表示されます。

お知らせ

本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。

SFC モード

SFC
HALL

SFC とは Sound Field Control（音場コントロール）の略で、アナログや PCM のステレオソースを再生したときに好みの臨場感や広がり感を与えることができます。再生する映画や音楽に合わせての 6 つの音場が選べます。

HALL（ホール）
大きなコンサートホールにいるような音の反響と広がりがあります。

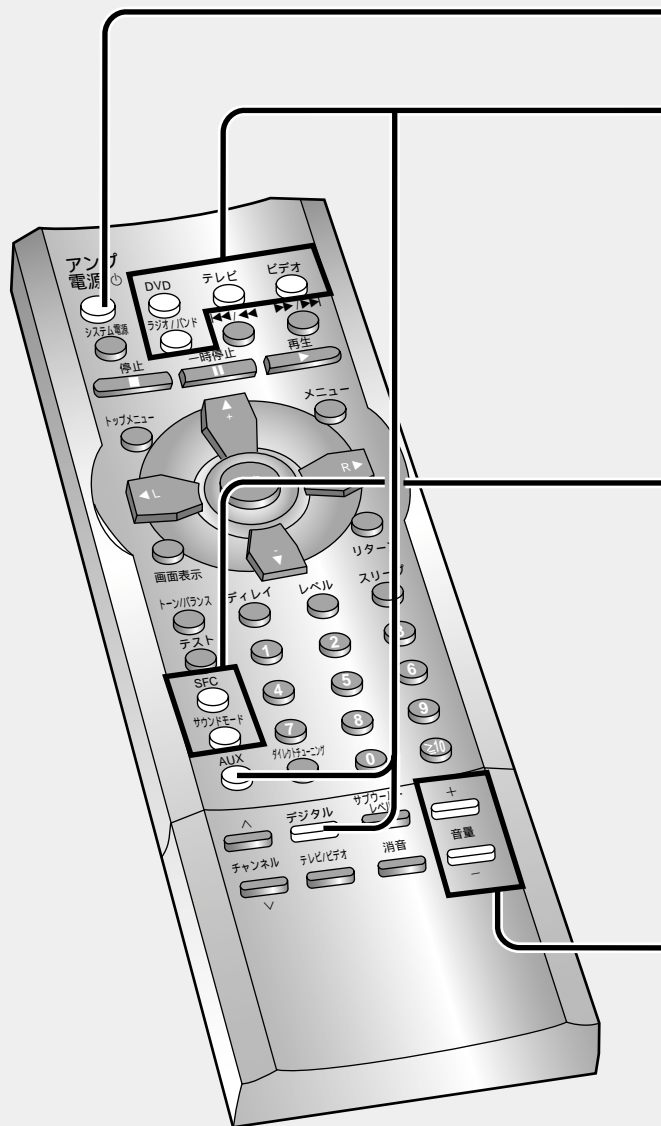
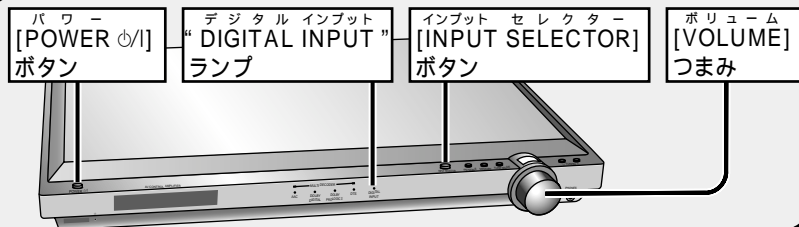
CLUB（クラブ）
ジャズクラブのような、天井が低く、音が反射しやすい硬い面で囲まれた狭い部屋をイメージしています。そのため演奏者がすぐ近くにいるような、臨場感のあるサウンドが得られます。

LIVE（ライブ）
ボーカルの声を際立たせることにより、ライブステージを聞いているような効果を出します。

THEATER（シアター）
映画の中の音源とその距離感がはっきりとし、また音の広がりがごく自然に再現されます。

SIM SURR（シミュレーテッドサラウンド）
サラウンドスピーカーから音が出ていないときやその音が小さい場合にこのモードをお試しください。広い空間で響いているような広がり感があります。またモノラルソースでも、サラウンドスピーカーから音を出すことで同様の効果を得られます。

PARTY（パーティー）
パーティー会場などのような、どこにいてもステレオ音声を楽しめる音場をつくり出します。

映画や音楽を楽しむ

1 電源を入れる

● 本体の[POWER ⏻/I]を押して、電源を入れることもできます。

2 入力ソースを選ぶ

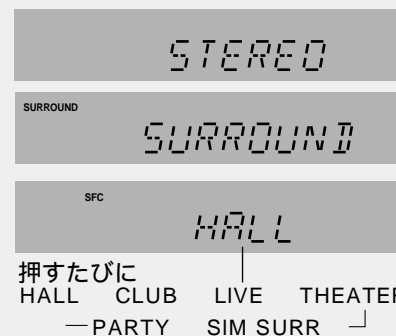
● 本体の[INPUT SELECTOR]を押して、入力ソースを切り換えることもできます。

● **DVD や TV を選択したときに、アナログ入力とデジタル入力の設定を切り換えるには：**
[デジタル]を押す
デジタル入力にすると本体正面の“ DIGITAL INPUT ”ランプが点灯します。
アナログとデジタル入力は、入力ソースごとに設定でき、その状態を記憶します。

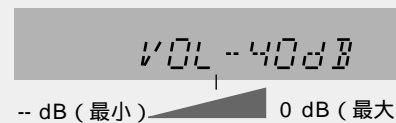
3 サウンドモードを選ぶ

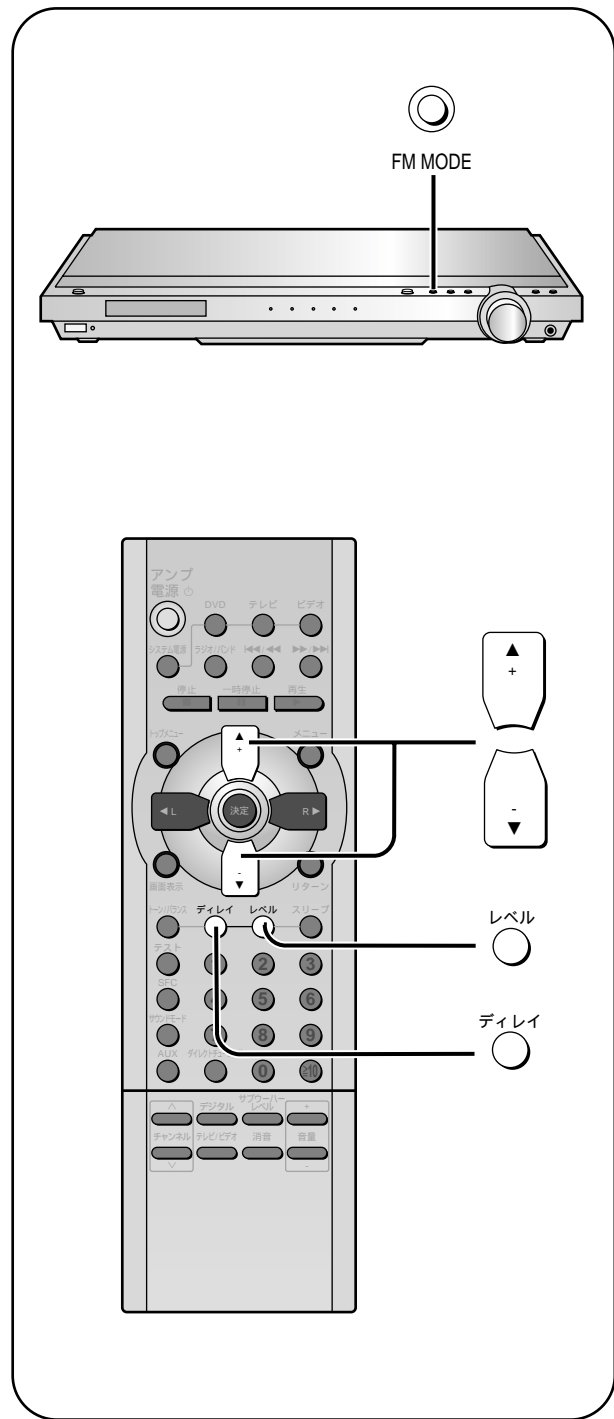
① **[サウンドモード]を押して、STEREO、SURROUND もしくは SFC を選ぶ**
(➡ 11 ページ)

② **上記で SFC を選んだ場合：**
[SFC]を押して、SFC モードを選ぶ
(➡ 11 ページ)

● サウンドモードは、入力ソースごとに設定でき、その状態を記憶します。

4 ソースを再生する

5 音量を調整する

● 本体の[VOLUME]で調整することもできます。

再生を楽しんだ後は

音量を下げてから［アンプ電源 ⏻］(リモコン) か［POWER ⏻/I］(本体) を押して電源を切ってください。

SFC モードで好みの効果をつける

SFC モードで再生しているとき、スピーカーの出力レベルやサラウンドチャンネルのディレイタイムを調整し、好みの効果をつけることができます。出力レベルとディレイタイムは SFC モードごとに調整でき、その状態を記憶します。

スピーカーの出力レベルを調整する

1 押して、スピーカーを選ぶ

押すたびに C → RS → LS → SW

- スピーカーの設定で SIZE を“ NONE ”や“ NO ”に設定したスピーカーはスキップされます。
(➡ 8 ページ)

2 押して、出力レベルを調整する

C、RS と LS：
−10 dB ～ +10 dB
(工場出荷時：0 dB)
SW：--- (切) ↔ MIN (最小) ↔ 1～19 ↔ MAX (最大)
(工場出荷時：SW 10)

サラウンドチャンネルのディレイタイムを調整する

1 押す

2 押して、好みのディレイタイムを選ぶ

10 mSEC から 100 mSEC の範囲を、10 mSEC 間隔で設定できます。
(工場出荷時：50 mSEC)

PCM FIX と DTS FIX

PCM (通常の音楽 CD など) あるいは DTS のデジタル信号のみを処理するように設定します。
正常に再生できる場合はこの設定を行う必要はありません。

PCM FIX： CD を再生したとき、曲の始まりが途切れる場合
DTS FIX： DTS ソースを再生しても、ソースが自動判別されず、DTS のMULTI DECODER ランプ (➡ 10 ページ) が点灯しない場合

FM MODE

入力ソースを選び、デジタル入力 (➡ 12 ページ) に設定した状態で

押し続ける (約 4 秒)

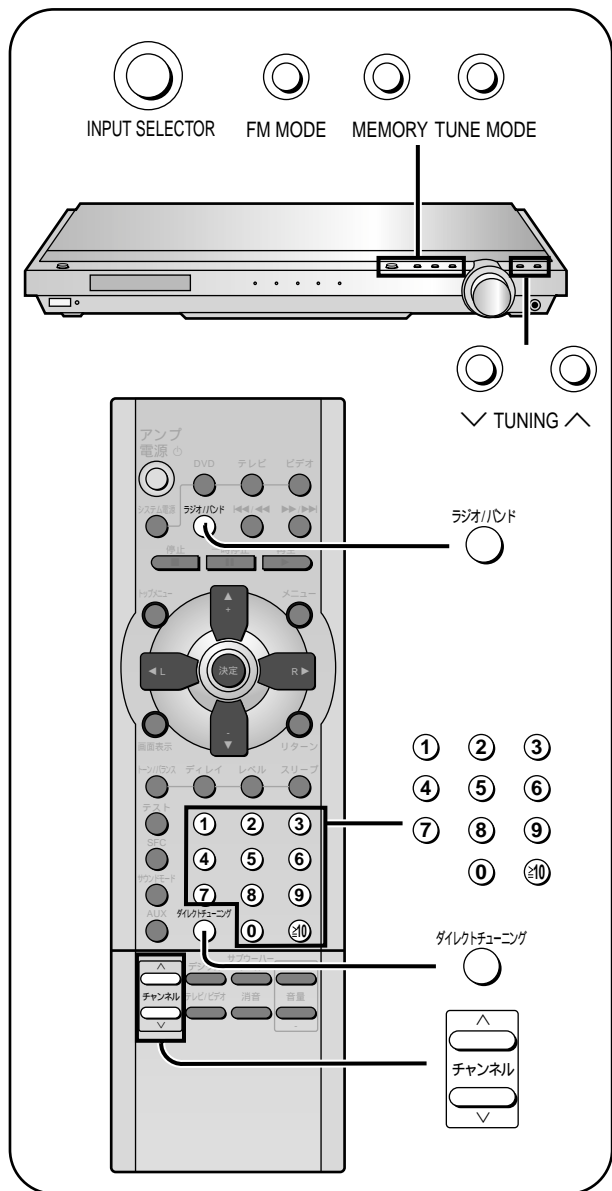
現在設定されているモードが表示されます。
モードの表示中にボタンを押して切り換えます。

押すたびに AUTO
AUTO → PCM FIX → DTS FIX

設定を解除する場合は“ AUTO ” (工場出荷時) を選択してください。

お知らせ

- PCM FIX モードのときに PCM 以外のデジタル信号は処理されません。
DTS FIX モードのときに DTS 以外のデジタル信号は処理されません。
- ノイズが発生する場合は“ AUTO ”を選んでください。
- 本機の電源を切ると、“ AUTO ”の状態に戻ります。

ラジオを聞く

お知らせ

チューナーが DVD プレーヤーからノイズを拾うことがあります。そのときは屋外アンテナを使うか(➡ 22 ページ)、AM ループアンテナを本機と DVD プレーヤーからできるだけ離してください。

聞く

リモコンで操作する

数字ボタンを使って直接放送局を指定し、聞くことができます。

1 **押して、“ FM ”または“ AM ”を選ぶ**

FM 76.0 MHz

押すたびに FM ⟷ AM

2 **押す**

FM MHz

カーソル

3 カーソルが点滅しているあいだに**押して、周波数を入力する**

例：88.1 MHz に合わせたいときは、
⑧ → ⑧ → ① を押す。

周波数が正しく入力されると、周波数が一度点滅し、その後、点灯状態になります。

お知らせ

実際にはないラジオの周波数を入力すると、“ ERROR ”表示が出ます。そのときは、もう一度入力し直してください。

本体で操作する

1 **押して、“ TUNER（FM）”または“ AM ”を選ぶ**

FM 76.0 MHz

押すたびに TUNER(FM) → AM → AUX
↑ VCR ← TV ← DVD ←

“ TUNER ”を選んだ後、約 2 秒間そのままにしておくと、FM 表示になります。

2 **押して、好みの放送局を受信する**

TUNED STEREO FM 88.1 MHz

TUNED：正確に受信すると点灯

STEREO：FM ステレオ放送を受信すると点灯

■自動的に選局するには（オートチューニング）

押し続け、周波数表示が変わり始めたら指を離す

最初に受信した放送局で自動停止します。
周囲に電波妨害があると、放送局を受信せずにオートチューニングが停止することがあります。

■FM ステレオ放送で雑音が多いときは

押して、FM モードを切り換える

TUNED MONO FM 88.1 MHz

“ STEREO ”が消え、“ MONO ”が点灯します。
放送はモノラル音声になりますが、雑音は減ります。ステレオ音声に戻すにはもう一度押してください。

放送局をメモリー(記憶)する

本機のプリセットチャンネルに周波数をメモリー(最大 30 局)し、簡単に受信できます。
● メモリーしたチャンネルに新しい周波数をメモリーすると、前の内容は消えます。

自動で記憶させる(オートメモリー)

受信できる放送局を低い周波数から順に探して、自動で記憶していきます。

■FM 局のみオートメモリーした場合
1〜30 チャンネルに記憶されます。

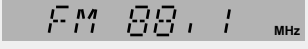
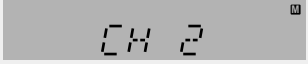
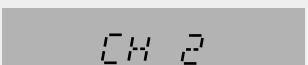
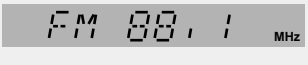
■FM 局と AM 局をオートメモリーした場合
FM 局は 1〜20、AM 局は 21〜30 チャンネルに記憶されます。(必ず先に FM 局から行ってください。逆にすると AM 局のメモリーが消えてしまいます。)

●FM 局をオートメモリーする

1 **FM を 76.0 MHz に合わせる**
(➡ 14 ページ)

2 MEMORY **押し続け、周波数表示が変わり始めたら指を離す**
オートメモリーが始まり、“ M ”が点滅します。途中でとめる場合は再び押してください。

●AM 局をオートメモリーする

1 **AM を 522 kHz に合わせる**
(➡ 14 ページ)

2 MEMORY **押し続け、周波数表示が変わり始めたら指を離す**
オートメモリーが始まり、“ M ”が点滅します。途中でとめる場合は再び押してください。

■放送局が記憶されると
メモリーしたチャンネルと“ M ”表示が約 1 秒間点灯します。

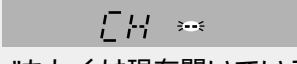
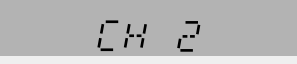
■オートメモリーが終了すると
最後に記憶された放送局の周波数が表示されます。

手動で記憶させる(マニュアルメモリー)

好みの放送局を好みのチャンネルにメモリーできます。

お知らせ

● 電波が弱い、あるいは強すぎるなどの理由で正確にオートメモリーできないことがあります。その場合はマニュアルメモリーを行ってください。
● 放送受信を“ MONO ”に設定した状態もメモリーできます (➡ 14 ページ)。

メモリーした放送局を聞く

リモコンで選ぶ

①②③④⑤⑥⑦⑧⑨⓪≧10

押して、チャンネルを入力する
CH 1

チャンネル 10 以上の選び方
例:10 ≧10 → ① → ⓪
25 ≧10 → ② → ⑤

(または)

押して、チャンネルを選ぶ
CH 1

本体で選ぶ

1 TUNE MODE **押す**
CH --
“ CH -- ”もしくは現在聞いているチャンネルが表示されます。

2 TUNING **押して、チャンネルを選ぶ**
CH 2
ボタンを押したままにすると、チャンネルを早送りできます。

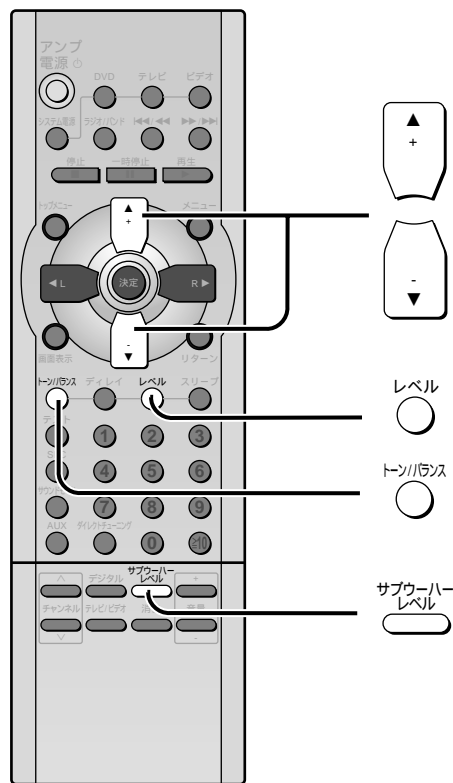
■聞いている放送局のチャンネルを確認するには

押す

チャンネルが約 5 秒間表示されます。

お知らせ

受信中に FM モード (➡ 14 ページ) を切り換えた場合、あるいは上記以外の方法で放送局を受信した場合にはチャンネルは表示されません。

音質・音量の調整

サブウーハーレベルの調整

ソースを再生している間にサブウーハーの出力レベルを調整できます。重低音に物足りなさを感じたり、抑えて出力させたいなど、好みにあわせて調整できます。

押す

現在の設定が表示されます。

押すたびに SW 10

---（切）→ MIN（最小）→ 5 → 10
MAX（最大）← 15 ←

- 工場出荷時の設定は“ SW 10 ”です。
- “ --- ”を選んでいるとサブウーハーから音は出ません。

1 段階ずつ調整するには

1 押して、“ SW ”を選ぶ

SW 10

2 押して、調整する

SW 12

---（切）、MIN（最小）、1 〜19、MAX（最大）の範囲で設定できます。

お知らせ

サブウーハーレベルが高い状態で本機の音量を上げるとサブウーハーから出力される音がひずんで聞こえることがあります。この場合はサブウーハーレベルを下げてください。

音質の調整

BASS（低音）と TREBLE（高音）を調整できるのは下記の条件を満たしている場合のみです。

サウンドモードが STEREO モード（➡ 11、12 ページ）の状態で：

1. アナログ入力

または

2. デジタル入力で信号が PCM（通常の音楽 CD など）

1 押して、“ BASS ”か“ TREBLE ”を選ぶ

押すたびに BASS

BASS → TREBLE → BALANCE

BASS：低音を調整するとき
TREBLE：高音を調整するとき

2 押して、調整する

0dB

−10 dB〜+10 dB

それぞれ−10 dB から+10 dB の間で調整できます。

お知らせ

操作後、約 4 秒間そのままにしておくと元の表示に戻ります。

便利な機能

音量バランスの調整

フロントスピーカーの音量バランスを調整できます。

1 押して、“ BALANCE ”を選ぶ

トーン/バランス

BALANCE

2 押して、調整する

L　I　R

バー（センター位置）

- バーの位置はボタンを数回押すと変わります。（表示はあくまでも目安です。）

L：音量バランスを左フロントスピーカー側に移すとき

R：音量バランスを右フロントスピーカー側に移すとき

お知らせ

操作後、約 4 秒間そのままにしておくと元の表示に戻ります。

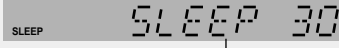
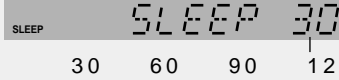
一時的に音を消す

消音　**押す**

MUTING O

機能が働いている間、表示窓に“ MUTING ON NOW ”と繰り返し表示（スクロール）されます。
もう一度押すと、元の音量に戻ります。

お知らせ

本機の電源を切ると、ミューティングは解除されます。

スリープタイマー

就寝時など、自動的に電源が切れるように時間を設定します。
30、60、90 、120 分の設定ができます。

1 スリープ　**押す**

押すたびに　SLEEP ⟷ OFF

解除する場合は“ OFF ”を選んでください。

2 押して、時間を設定する

30 ⟷ 60 ⟷ 90 ⟷ 120

■残り時間を調べたいとき

スリープ　**押す**

約 5 秒間表示されます。

ヘッドホン

1 音量を下げる

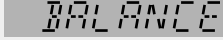
2 ヘッドホンを接続する

プラグタイプ：ステレオ大型（M6）

3 音量を調整する

お知らせ

- ヘッドホンを接続すると自動的に STEREO モードになります。SURROUND モードや SFC モードは選べません。
- 耳を刺激するような大きな音で、長時間聞くことは避けてください。

音のエチケット

楽しい音楽も時と場所によっては気になるものです。 特に静かな夜間には窓を閉めたり、ヘッドホンをご使用になるのも一つの方法です。

音のエチケットシンボルマーク

設定の変更

お知らせ

本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。

デジタル入力相関関係表

デジタル入力端子の設定		使用できない端子
DVD	TV	
OPT1	OPT2	COAX
COAX	OPT2	OPT1
OPT1	COAX	OPT2

デジタル入力端子の切り換え D-INPUT

DVD、TV のデジタル入力端子の設定を“ 光（OPT）”が“ 同軸（COAX）”に切り換えます。使用する側に設定してください。(➡ 6、7 ページ)

工場出荷時：DVD：OPT1（光1）
TV：OPT2（光2）

お知らせ

ひとつの入力に対して光（OPT）と同軸（COAX）を両方使用することはできません。例えば、DVDのデジタル入力端子を“ COAX ”に設定した場合、DVD の光入力端子は使用できません。くわしくは左下“ デジタル入力相関関係表 ”を参照ください。

1

同時に押す

2

MEMORY

押して、“ D-INPUT ”を選ぶ

D-INPUT

押すたびに
SIZE → DISTANCE → FILTER → DR COMP
↑ PLⅡ MODE ← A/D ATT ← LIGHT ← D-INPUT ↵

3

押して、デジタル入力端子に接続した機器を選ぶ

4

押して、デジタル入力端子を切り換える

DVD と TV を両方とも“ COAX ”に設定することはできません。

5

MEMORY TUNE MODE

同時に押して、設定を終了する

COMPLETE

小音量でも聞きやすくする DR COMP

深夜など大きな音を出せない場合にこの設定を行ってください。音声信号の最大音と最小音の差を圧縮し、音場に影響することなく小音量でもセリフを聞きやすい音にします。この設定はダイナミックレンジの圧縮に対応したドルビーデジタルのソフトのみ有効です。

OFF：通常の再生（工場出荷時）
STANDARD：ソフト制作者が家庭用として推奨する圧縮レベル
MAX： 深夜視聴を前提とした最大の圧縮

1 同時に押す

2 押して、“ DR COMP ”を選ぶ

3 押して、圧縮レベルを選ぶ

4

同時に押して、設定を終了する

お知らせ

本機の電源を切っても、設定を終了していれば、設定内容は記憶されます。

表示窓の明かりを消す LIGHT

部屋を暗くしてソースを再生するような場合に、表示窓の明かりを消すことができます。

1 MEMORY TUNE MODE **同時に押す** SETTING

2 MEMORY **押して、“ LIGHT ”を選ぶ** LIGHT

押すたびに
SIZE → DISTANCE → FILTER → DR COMP
← PLⅡ MODE ← A/D ATT ← LIGHT ← D-INPUT

3 ∨ TUNING ∧ **押して、“ OFF（消灯）” を選ぶ** OFF

OFF ⟷ ON（工場出荷時）

元に戻す場合は“ ON（点灯）”を選んでください。

4 MEMORY TUNE MODE **同時に押して、設定を終了する** COMPLETE

アッテネーターの切り換え A/D ATT

アナログ入力で再生中、音がひずみ、表示窓に“ OVERFLOW ”が点滅した場合は“ ON ”にしてください。（アナログ入力のときのみ設定できます。）

1 MEMORY TUNE MODE **同時に押す** SETTING

2 MEMORY **押して、“ A/D ATT ”を選ぶ** A/D ATT

押すたびに
SIZE → DISTANCE → FILTER → DR COMP
← PLⅡ MODE ← A/D ATT ← LIGHT ← D-INPUT

3 ∨ TUNING ∧ **押して、“ ON（入）” を選ぶ** ON

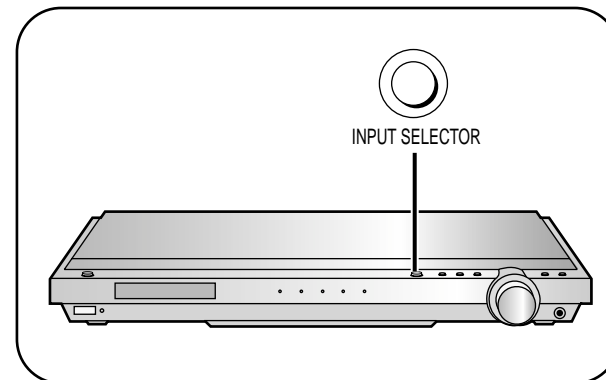
OFF（工場出荷時） ⟷ ON

元に戻す場合は“ OFF（切）”を選んでください。

4 MEMORY TUNE MODE **同時に押して、設定を終了する** COMPLETE

録音・録画

- 本機の“ ビデオデッキ ”端子に接続したビデオデッキに録音・録画できます。（➡ 7 ページ）
- 本機の“ 音声出力 ”端子に接続したカセットデッキや MD デッキに録音できます。（➡ 7 ページ）

録音、録画、再生機器の説明書もご覧ください。

準備：

本機と再生機器をアナログ接続して（➡ 6、7 ページ）、アナログ入力を選んでください（➡ 12 ページ）。デジタル接続での録音はできません。

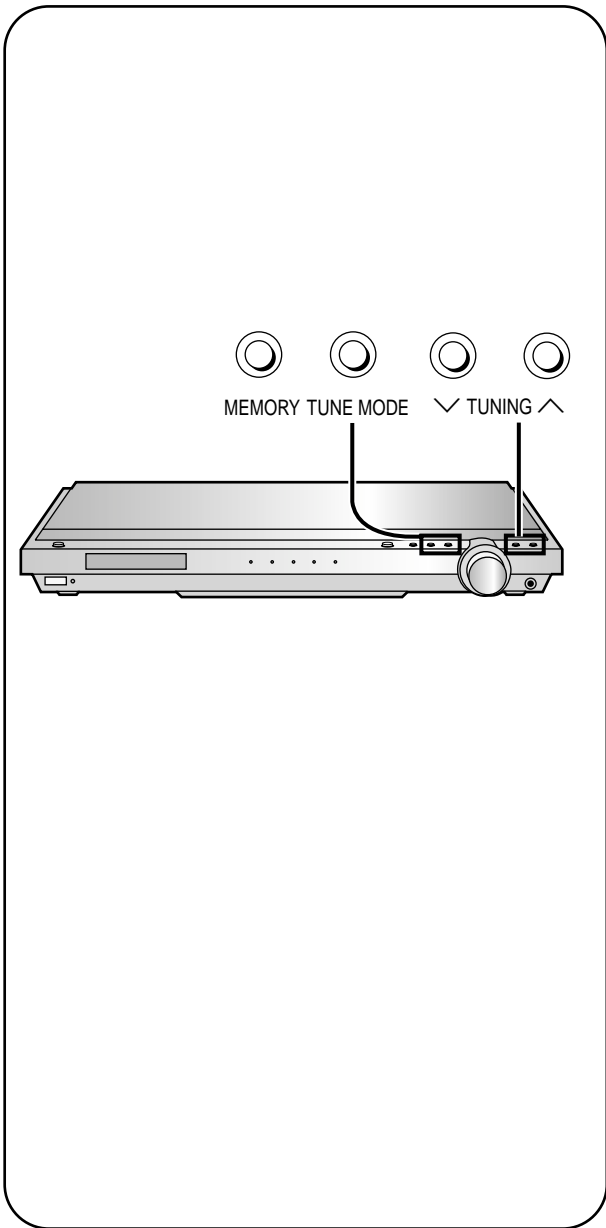
1

押して、録音・録画するソースを選ぶ

2 **録音・録画を始める**

3 **録音・録画するソースの再生を始める**

お知らせ

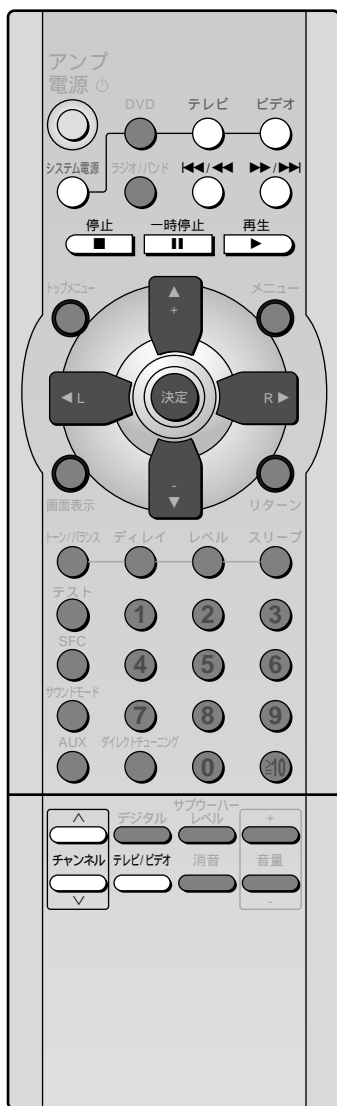
- “ 補助入力（AUX）”端子に接続した機器から、“ 音声出力 ”端子に接続した機器への録音はできません。録音する場合は“ ビデオデッキ ”端子に接続した機器へ録音してください。
- コピーガードされた DVD などはビデオデッキに録画できません。

リモコンで DVD プレーヤーなどを操作する

本機の他、当社製（パナソニック/テクニクス）の DVD プレーヤー、テレビやビデオデッキを本機のリモコンで操作できます。（ただし本機のリモコンでは、操作のできない機種があります。）
各操作についてくわしくは、それぞれの機器の説明書をご覧ください。

DVD プレーヤーを操作する

操作	ボタン
本機の入力を“DVD”に切り換える/リモコンをDVD プレーヤー操作モードに切り換える	DVD DVD プレーヤー操作の前に必ず行ってください。
DVD プレーヤーの電源を入/切する	システム電源
トラックやチャプターを飛び越す（スキップ）/見たい場所を探す（サーチ）	⏮/◀◀ ▶▶/⏭ **サーチの場合は押し続ける**
再生を始める	再生 ▶
トップメニューを表示する	トップメニュー
メニューを表示する	メニュー
画面表示（GUI）を表示する	画面表示
前の画面に戻る	リターン

操作	ボタン
項目を選ぶ [トップメニュー]、[メニュー]や[画面表示]を押した後に操作してください。	▲+ ◀L R▶ −▼
選んだ項目を実行する	決定
トラックやチャプターを直接選ぶ	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⓪ ≧10 例:1 ① 例:10 ≧10 → ① → ⓪
一時停止する	一時停止 ❚❚
スロー再生する	一時停止 ❚❚ ⬇ ⏮/◀◀ ▶▶/⏭ **押し続ける**
コマ戻し/コマ送りする	一時停止 ❚❚ ⬇ ◀L R▶
再生を停止する	停止 ■

テレビもしくはビデオデッキに向けて

テレビを操作する

本機の入力を“ TV ”に切り換える/リモコンをテレビ操作モードに切り換える	テレビ テレビ操作の前に必ず行ってください。
テレビの電源を入/切する	システム電源
テレビのテレビ/ビデオ入力を切り換える	テレビ/ビデオ
チャンネルを選ぶ	チャンネル **お知らせ** 数字キーでチャンネルを選ぶことはできません。

ビデオデッキを操作する

本機の入力を“ VCR ”に切り換える/リモコンをビデオデッキ操作モードに切り換える	ビデオ ビデオデッキ操作の前に必ず行ってください。
ビデオデッキの電源を入/切する	システム電源
チャンネルを選ぶ	チャンネル **お知らせ** 数字キーでチャンネルを選ぶことはできません。
再生を始める	再生
巻き戻し/早送りをする	⏮/◀◀ ▶▶/⏭
一時停止する	一時停止
再生を停止する	停止

屋外アンテナの接続

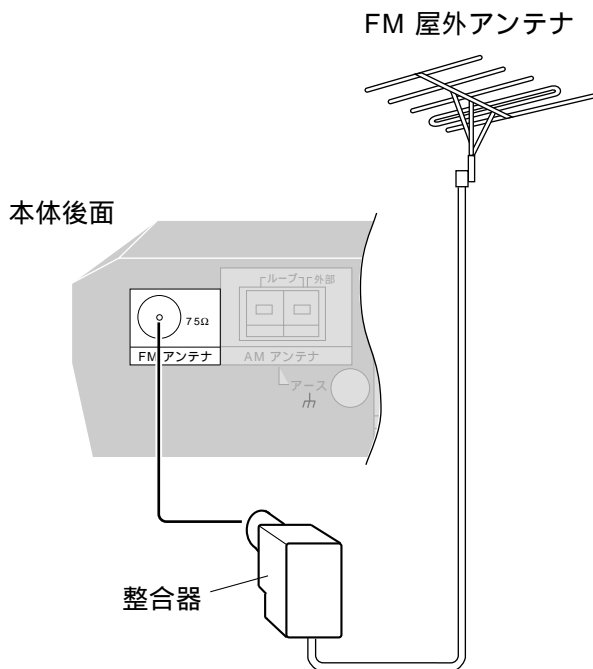
山間部や鉄筋コンクリート建てのビルの中などで、電波を受信しにくい場合は、屋外アンテナを接続してください。

FM 屋外アンテナの利用

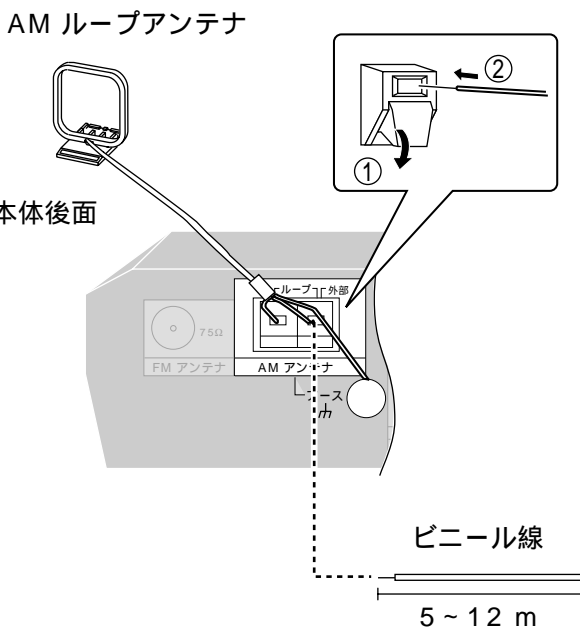
アンテナ線（同軸ケーブル）を整合器（市販）に取り付けて、後面に接続します。
付属の FM アンテナは外してください。

■整合器の接続

AM 屋外アンテナ（ビニール線の利用）

窓際などに、ビニール線（市販）を水平に取り付けます。
付属の AM ループアンテナも同時に接続しておきます。

■ビニール線の接続

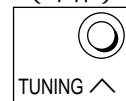
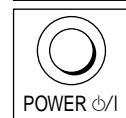
お知らせ

分配器でテレビのアンテナと本機に接続する FM 屋外アンテナを共用すると、テレビ画面の乱れの原因になる場合があります。

Q & A（よくあるご質問）

Q（質問）	A（回答）
マイクを接続したい。	本機には接続できません。
DVD プレーヤーにマイクを接続してカラオケを楽しもうとしたが、マイクの音が出ない。	DVD プレーヤーと本機をデジタル接続している場合はマイクの音は出力されません。アナログ接続して、アナログ入力にしてください。（➡ 6 、12 ページ）
● DTS の音声が出ない。 ● 音声は出るが DTS の MULTI DECODER ランプが点灯しない。	DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定を確かめてください。
サンプリング周波数 96 kHz の DVD を再生しても音が出ない。	著作権保護の理由などでデジタル接続では音声が出ないディスクがあります。
長時間使用すると、本体が熱くなるが、大丈夫か。	大丈夫です。 ただし、冷却ファンと壁などの間を近づけすぎたり、物でふさぐなど、放熱を妨げることはしないでください。
引っ越しするのだが、そのまま使えるか。	東日本、西日本に関係なく使えます。

工場出荷時の状態に戻すには

メモリーしたラジオのチャンネル（➡ 15 ページ）を除くすべての設定を工場出荷時の状態に戻します。再度設定を行ってください。

（本体）

押しながら

押す
表示窓に“ RESET ”が表示されます。

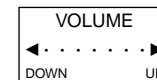
故障かな !?

修理を依頼される前に、この表で症状を確かめてください。
なお、これらの処理をしても直らない場合や、この表以外の症状は、お買い上げの販売店にご相談ください。

	こんなときは	ここを確認・処理してください	参照ページ
共通	**電源が入らない。**	● 電源プラグがコンセントに正しく接続されているか、確認してください。	6
共通	**機器の再生を始めても音や映像が出ない。**	● 入力ソースを正しく選択してください。 ● 消音を解除してください。 ● スピーカーや機器が正しく接続されているか確認してください。 ● デジタル入力端子の設定を確認してください。 ● PCM FIX モードまたは DTS FIX モードを解除してください。	12 17 4～7 18 13
共通	**再生中に音が出なくなった。** **電源が切れた。** 本機は異常を検出すると、保護回路が働いて電源を自動的に切ります。（“ F61 ”が約 1 秒間表示されます。）	● スピーカーコードの ⊕ と ⊖ がショートしていませんか。 ● スピーカーインピーダンスが本機の許容範囲より低くないですか。 ● 著しい大音量で聞いていませんか。 ● 異常に暑い場所で使用していませんか。 ➡ 原因を解消して、しばらく待ってから再び電源を入れてください。（保護回路が解除されます。）（それでも同じ現象が起こる場合は販売店にご相談ください。）	5 5 — —
共通	**表示窓に“ F70 ”が点灯している。**	● 電源を入れ直す、もしくは電源プラグをコンセントに差し直してください。（それでも表示が消えない場合は販売店にご相談ください。）	—
共通	**リモコンが働かない。**	● 電池が消耗している場合は電池を交換してください。	4

	こんなときは	ここを確認・処理してください	参照ページ
サウンドモード	**センタースピーカー、サラウンドスピーカー、サブウーハーから音が聞こえない。**	● スピーカーの設定で SIZE を“ NONE ”や“ NO ”に設定していませんか。 ● サウンドモードを確かめ、SURROUND モードあるいは SFC モードを選んでください。	8 11、12
サウンドモード	**DTS フォーマットのソースを STEREO や SURROUND で再生できない。**	● DVD プレーヤーのデジタル音声出力の設定を確かめてください。 ● DTS FIX モードにしてください。	— 13
サウンドモード	**ドルビーデジタル、DTS や AAC のソースを再生しても音が出ない。**	● サウンドモードが SFC モードになっている場合、ドルビーデジタル、DTS や AAC のソースを再生しても音は出ません。それぞれのフォーマットに合ったサウンドモードにしてください。	10～12
ラジオ	**受信できない。** **雑音やひずみが多い。**	● アンテナの向きや位置を変えてみてください。 ● [トーン/バランス]で高音を絞ってみてください。 ● 本機、DVD プレーヤー、テレビやビデオデッキから AM ループアンテナを離してください。 ● 屋外アンテナに替えてみてください。 ● アンテナと他のコードを遠ざけてください。	7 16 — 22 —

各部のなまえ

本体
DIGITAL INPUT（デジタル入力）ランプ（➡ 12 ページ）
MULTI DECODER ランプ（➡ 10 ページ）
表示窓（➡ 下記）
POWER ⏻/I（電源）ボタン（➡ 8 ページ）
⏻（通電）ランプ
リモコン受光部（➡ 4 ページ）
INPUT SELECTOR（入力切り換え）ボタン（➡ 12 ページ）
FM MODE（FM 受信モード選択）ボタン（➡ 13、14 ページ）
MEMORY（記憶）ボタン（➡ 8、15 ページ）
TUNE MODE（ラジオチャンネル呼び出し）ボタン（➡ 8、15 ページ）
ボリューム表示窓
VOLUME
DOWN
UP
● 音量を調整している間、◁（DOWN）もしくは ▷（UP）の中のランプが点灯します。
TUNING（選局）ボタン（➡ 8、14 ページ）
PHONES（ヘッドホン）端子（➡ 17 ページ）
VOLUME（音量調整）つまみ（➡ 12 ページ）
POWER
AV CONTROL AMPLIFIER
MULTI DECODER
AAC
DOLBY DIGITAL
DOLBY PROLOGIC II
DTS
DIGITAL INPUT
MEMORY
TUNE MODE
PHONES
表示窓
サウンドモード表示（➡ 11 ページ）
同調表示（➡ 14 ページ）
スリープタイマー表示（➡ 17 ページ）
FM モード表示（➡ 14 ページ）
SURROUND SFC
TUNED
STEREO
SLEEP
MONO
LFE LS L C R RS S
M
kHz
MHz
プログラムフォーマット表示（➡ 10 ページ）
メモリー表示（➡ 15 ページ）
周波数単位表示（➡ 14 ページ）
共通の表示部

リモコン

アンプ電源 ⏻（本体電源）ボタン
（➡ 12 ページ）
システム電源（接続機器電源）ボタン
（➡ 20、21 ページ）
トーン/バランス（音質、音量バランス選択）ボタン
（➡ 16、17 ページ）
テスト（テスト信号出力）ボタン
（➡ 9 ページ）
サウンドモード選択ボタン
（➡ 12 ページ）
AUX（補助入力選択）ボタン
（➡ 12 ページ）
ダイレクトチューニング（直接選局）ボタン
（➡ 14 ページ）
チャンネル（チャンネル選局）ボタン
（➡ 15、21 ページ）
デジタル（デジタル、アナログ切り換え）ボタン
（➡ 12 ページ）
テレビ/ビデオ（テレビ、ビデオ入力切り換え）ボタン
（➡ 21 ページ）
入力ソース切り換えボタン
（➡ 12 ページ）
テープ、ディスク操作ボタン
（➡ 20、21 ページ）
DVD プレーヤー操作、各種調整/選択ボタン
（➡ 9、20 ページ）
スリープ（スリープタイム設定）ボタン
（➡ 17 ページ）
スピーカー出力レベル、ディレイタイム調整ボタン
（➡ 9、13 ページ）
数字ボタン
（➡ 14、20 ページ）
音量（音量調整）ボタン
（➡ 9、12 ページ）
消音ボタン（➡ 17 ページ）
サブウーハーレベル（低音調整）ボタン
（➡ 16 ページ）
アンプ電源
DVD
テレビ
ビデオ
システム電源
ラジオ/バンド
再生
停止
一時停止
メニュー
トップメニュー
決定
R
L
リターン
画面表示
スリープ
ディレイ
レベル
トーン/バランス
テスト
SFC
サウンドモード
AUX
ダイレクトチューニング
デジタル
サブウーハーレベル
消音
音量
チャンネル
テレビ/ビデオ

お手入れ

付属のクリーニングクロスでふいてください。

- アルコールやシンナーは使わないでください。

ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
Dolby、ドルビー、Pro Logic 及びダブル D 記号はドルビーラボラトリーズの商標です。

この製品は米国 DTS 社からの実施権に基づき製造されています。合衆国特許 No.5,451,942, 5,956,674, 5,974,380, 5,978,762。海外特許申請中。
「DTS」および「DTS デジタルサラウンド」は DTS 社の登録商標です。

保証とアフターサービス

よくお読みください

修理・お取り扱い・お手入れ
などのご相談は…
まず、お買い上げの販売店へ
お申し付けください

転居や贈答品などでお困りの場合は・・・

- 修理は、サービス会社・販売会社の「修理ご相談窓口」へ！
- その他のお問い合わせは、「お客様ご相談センター」へ！

■ 保証書 （別添付）

お買い上げ日・販売店名などの記入を必ず確かめ、お買い上げの販売店からお受け取りください。よくお読みのあと、保存してください。

保証期間：お買い上げ日から本体 1 年間

■ 補修用性能部品の保有期間

当社は、AV コントロールアンプの補修用性能部品を、製造打ち切り後 8 年保有しています。
注）補修用性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。

使いかた・お買い物などのご相談

ナショナル／パナソニック
お客様ご相談センター

電話 フリーダイヤル 0120-878-365 （パナは 365日）
FAX フリーダイヤル 0120-878-236
365日／受付9時～20時

Help desk for foreign residents in Japan
〈外国人／海外仕様商品（ツーリスト商品他）等ご相談窓口〉
Tokyo (03) 3256 - 5444 **Osaka** (06) 6645 - 8787
Open : 9:00 - 17:30
(closed on Saturdays / Sundays / national holidays)

■ 修理を依頼されるとき

23 ページの表に従ってご確認のあと、直らないときは、まず電源プラグを抜いて、お買い上げの販売店へご連絡ください。

- **保証期間中は**
  保証書の規定に従って、出張修理をさせていただきます。
- **保証期間が過ぎているときは**
  修理すれば使用できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。
- **修理料金のしくみ**
  修理料金は、技術料・部品代・出張料などで構成されています。
  技術料 は、診断・故障個所の修理および部品交換・調整・修理完了時の点検などの作業にかかる費用です。
  部品代 は、修理に使用した部品および補助材料代です。
  出張料 は、製品のある場所へ技術者を派遣する場合の費用です。

ご連絡いただきたい内容

項目	内容
品　名	AV コントロールアンプ
品　番	SA-XR10
お買い上げ日	年　月　日
故障の状況	できるだけ具体的に

修理に関するご相談

ナショナル／パナソニック
修 理 ご 相 談 窓 口

ナビダイヤル(全国共通番号)

0570-087-087

- お客様がおかけになった場所から最寄りの修理ご相談窓口につながります。呼出音の前にNTTより通話料金の目安をお知らせします。
- 携帯電話・PHS等からは最寄りの修理ご相談窓口に直接おかけください。

ナショナル／パナソニック 修 理 ご 相 談 窓 口

北 海 道 地 区

- **札幌** 札幌市厚別区厚別南2丁目17-7 ☎(011)894-1251
- **帯広** 帯広市西19条南1丁目7-11 ☎(0155)33-8477
- **旭川** 旭川市2条通21丁目左1号 ☎(0166)31-6151
- **函館** 函館市西桔梗589番地241(函館流通卸センター内) ☎(0138)48-6631

東 北 地 区

- **青森** 青森市大字八ッ役字矢作1-37 ☎(017)739-9712
- **宮城** 仙台市宮城野区扇町7-4-18 ☎(022)387-1117
- **秋田** 秋田市御所野湯本2丁目1-2 ☎(018)826-1600
- **山形** 山形市流通センター3丁目12-2 ☎(023)641-8100
- **岩手** 盛岡市羽場13地割30-3 ☎(019)639-5120
- **福島** 福島県安達郡本宮町字南ﾉ内65 ☎(0243)34-1301

ナショナル／パナソニック 修 理 ご 相 談 窓 口

首 都 圏 地 区

- **栃木** 宇都宮市御幸町194-20 ☎(028)689-2555
- **群馬** 高崎市大沢町229-1 ☎(027)352-1109
- **水戸** 水戸市柳河町309-2 ☎(029)225-0249
- **つくば** つくば市花畑2丁目8-1 ☎(0298)64-8756
- **埼玉** 桶川市赤堀2丁目4-2 ☎(048)728-8960
- **千葉** 千葉市中央区星久喜町172 ☎(043)208-6034
- **東京** 東京都世田谷区宮坂2丁目26-17 ☎(03)5477-9780
- **山梨** 甲府市下飯田2丁目1-27 ☎(055)222-5171
- **神奈川** 横浜市港南区日野5丁目3-16 ☎(045)847-9720
- **新潟** 新潟市東明1丁目8-14 ☎(025)286-7725

中 部 地 区

- **石川** 石川県石川郡野々市町稲荷3丁目80 ☎(076)294-2683
- **富山** 富山市寺島1298 ☎(076)432-8705
- **福井** 福井市開発4丁目112 ☎(0776)54-5606
- **長野** 松本市大字笹賀7600-7 ☎(0263)58-0073
- **静岡** 静岡市西島765 ☎(054)287-9000
- **名古屋** 名古屋市瑞穂区塩入町8-10 ☎(052)819-0225
- **岡崎** 岡崎市岡町南久保28 ☎(0564)55-5719
- **岐阜** 岐阜県本巣郡北方町高屋太子2丁目30 ☎(058)323-6010
- **高山** 高山市花岡町3丁目82 ☎(0577)33-0613
- **三重** 久居市森町字北谷1920-3 ☎(059)255-1380

近 畿 地 区

- **滋賀** 守山市勝部6丁目2-1 ☎(077)582-5021
- **京都** 京都市南区上鳥羽石橋町20-1 ☎(075)672-9636
- **大阪** 大阪市北区本庄西1丁目1-7 ☎(06)6359-6225
- **奈良** 大和郡山市椎木町404-2 ☎(0743)59-2770
- **和歌山** 和歌山市中島499-1 ☎(073)475-2984
- **兵庫** 神戸市中央区琴ﾉ緒町3丁目2-6 ☎(078)272-6645

中 国 地 区

- **鳥取** 鳥取市安長295-1 ☎(0857)26-9695
- **米子** 米子市米原4丁目2-33 ☎(0859)34-2129
- **松江** 松江市西津田2丁目10-19 ☎(0852)23-1128
- **出雲** 出雲市渡橋町416 ☎(0853)21-3133
- **浜田** 浜田市下府町327-93 ☎(0855)22-6629
- **岡山** 岡山県都窪郡早島町矢尾807 ☎(086)292-1162
- **広島** 広島市西区南観音8丁目13-20 ☎(082)295-5011
- **山口** 山口市鋳銭司 字鋳銭司団地北447-23 ☎(083)986-4050

四 国 地 区

- **香川** 高松市勅使町152-2 ☎(087)868-9477
- **徳島** 徳島県板野郡北島町鯛浜字かや108 ☎(088)698-1125
- **高知** 南国市岡豊町中島331-1 ☎(088)866-3142
- **愛媛** 松山市土居田町750-2 ☎(089)971-2144

九 州 地 区

- **福岡** 春日市春日公園3丁目48 ☎(092)593-9036
- **佐賀** 佐賀市本庄町大字本庄896-2 ☎(0952)26-9151
- **長崎** 長崎市東町1949-1 ☎(095)830-1658
- **大分** 大分市萩原4丁目8-35 ☎(097)556-3815
- **宮崎** 宮崎県宮崎郡清武町下加納366-2 ☎(0985)85-6530
- **熊本** 熊本市健軍本町12-3 ☎(096)367-6067
- **天草** 本渡市港町18-11 ☎(0969)22-3125
- **鹿児島** 鹿児島市与次郎1丁目5-33 ☎(099)250-5657
- **大島** 名瀬市矢之脇町10-5 ☎(0997)53-5101

沖 縄 地 区

- **沖縄** 浦添市城間4丁目23-11 ☎(098)877-1207

所在地、電話番号が変更になることがありますので、あらかじめご了承ください。

0501

主な仕様

■ アンプ部

実用最大定格（サラウンドモード　各 ch 動作時）

フロント	100 W ＋ 100 W（6 Ω, JEITA）
センター	100 W（6 Ω, JEITA）
サラウンド	100 W ＋ 100 W（6 Ω, JEITA）
サブウーハー	100 W（6 Ω, JEITA）

定格出力（サラウンドモード　各 ch 動作時）

フロント	70 W ＋ 70 W（1 kHz 6 Ω 0.09 %）
センター	70 W（1 kHz 6 Ω 0.09 %）
サラウンド	70 W ＋ 70 W（1 kHz 6 Ω 0.09 %）
サブウーハー	70 W（100 Hz 6 Ω 0.09 %）

定格出力（ステレオ時）

70 W ＋ 70 W（1 kHz 6 Ω 0.09 %）

全高調波ひずみ率

1 kHz 定格出力	0.09 %（6 Ω）
35 W 出力	0.05 %（6 Ω）

負荷インピーダンス

フロント	6～16 Ω
センター	6～16 Ω
サラウンド	6～16 Ω
サブウーハー	6～16 Ω

周波数特性

DVD, VCR, TV, AUX	10 Hz～44 kHz, ±3 dB

入力感度/入力インピーダンス

DVD, VCR, TV, AUX	200 mV/22 kΩ

信号対雑音比（S/N 比）

DVD, TV（DIGITAL INPUT）	98 dB

トーンコントロール特性

BASS	50 Hz, +10 ～ −10 dB
TREBLE	20 kHz, +10 ～ −10 dB

定格出力電圧

音声出力	200 mV
ビデオデッキ出力	200 mV

■ FM チューナー部

受信周波数帯	76.0～90.0 MHz
実用感度	16.3 dBf（3.6 μV, IHF ’58）
全高調波ひずみ率	
MONO	0.3 %
STEREO	0.5 %
ステレオセパレーション	
1 kHz	35 dB
アンテナ端子	75 Ω（不平衡型）

■ AM チューナー部

受信周波数帯	522～1629 kHz
実用感度	20 μV, 600 μV/m

■ 映像部

出力電圧（1 V 入力時）	1 ±0.1 Vp-p
最大入力電圧	1.5 Vp-p
入出力インピーダンス（アンバランス）	75 Ω

■ 総合

電源	AC 100 V, 50/60 Hz
消費電力	230 W
寸法（幅×高さ×奥行き）	430 ×52 × 334 mm
質量	約 3.5 kg

電源スタンバイ時の消費電力	約 0.5 W

注）
1. この仕様は、性能向上のため変更することがあります。
2. 全高調波ひずみ率は、スペクトラムアナライザーによる 10 次高調波までの総和です。

高調波ガイドライン適合品

愛情点検　**長年ご使用の AV コントロールアンプの点検を！**

こんな症状はありませんか

- 煙が出たり、異常なにおいや音がする
- 音が出ないことがある
- 正常に動作しないことがある
- 商品に破損した部分がある
- その他の異常や故障がある

▶ **このような症状の時は、使用を中止し、故障や事故の防止のために、必ず販売店に点検をご相談ください。**

便利メモ（おぼえのため、記入されると便利です。）

お買い上げ日	年　月　日
品　番	SA-XR10
販売店名	☎（　）　−
お客様ご相談窓口	☎（　）　−

松下電器産業株式会社　AVC ネットワーク事業グループ

〒 571-8505 大阪府門真市松生町 1 番 4 号

RQT6214-S
H1101RF0